

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2018. 10.31 No.59

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目 次

- ・村松 玄太「第 109 回研究会「資料目録について考える—その構築と公開をめぐる—」」… 1
- ・田辺 可奈「東日本部会創立 30 周年記念講演会・シンポジウム
「大学アーカイブズの可能性」から考えたこと」…………… 3
- ・北口 由望「第 110 回研究会（東京藝術大学）に参加して」…………… 4
- ・全国大学史資料協議会東日本部会 2018 年度総会議事録…………… 6
- ・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録…………… 12
- ・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録…………… 16

2018 年 3 月 15 日（木）研究会

第 109 回研究会「資料目録について考える—その構築と公開をめぐる—」

明治大学史資料センター 村松 玄太

これまで東日本部会では研究会において、類縁機関の見学や講演会等を実施するほか、会員がそれぞれの職場で直面する実務上の様々な課題や疑問を持ち寄って意見交換を図り、以て相互の知識と資質向上に資する場にもしてきた。今回は後者の観点に立ち、会員が日常的に行う業務の一つである「資料目録の構築とその公開」をめぐるテーマを設定した。いうまでもなく、大学史資料を取り扱う機関にとって所蔵する資料の目録構築は、資料利活用の根幹に関わるきわめて重要な作業である。だが現在、大学史資料の目録構築にあたっては、統一的なルールは存在せず、各

機関の来歴や事情に応じて様々な方法が採られている。ただ、それぞれがどのように資料を整理し、目録を構築しているのかを知る機会はそれほど多くない。そこで今回は、各機関で行っている資料目録の構築と、目録公開をしている機関はその実情についてもご披露頂いた。

研究会では最初に、5 機関の担当者が資料目録の構築と公開をめぐる報告を行った。目録構築の実態については、瀬戸口龍一氏（専修大学）「専修大学における文書資料目録の作成について」、松原太郎氏（日本大学）「構築をめぐる（写真編）」、村松「永遠の

仮目録」の3本の報告がなされた。瀬戸口氏は専修大学における資料受け入れ台帳の作成と5種類の目録作成、目録作成のフォーマット、マニュアルを作成していることや今後の課題などを報告した。松原氏は、日本大学広報課から移管された写真資料約30,000点の整理を行うために導入した写真画像データベースの構築と、今後の改善点について報告した。村松は、明治大学における内部用の目録作成が構築スピードを重視したため、公開できない「仮目録」に留まっている現状について報告した。

会員のなかでも資料目録の公開をしている機関は限られるが、そのなかから椿田卓士氏（東海大学）「資料目録ウェブ検索システムと資料公開について」、舟橋正真氏（立教学院史資料センター）「立教学院史データベースの現状と課題」2本の報告を行った。椿田氏は東海大学学生の保護者組織である連合後援会の援助を得て2012年公開、2017年現在目録登録件数17万件以上におよぶ「学園史資料センター所蔵資料目録検索システム」の整備と更新作業、そして公開にあたっての課題（資料利用制限・ソフトのバージョンアップのコストなど）について報告した。舟橋氏は、資料データ16,000件あまり、記事データ100,000件にせまる「立教学院史資料データベース」の概要と毎年の公開作業、今後のデータベース拡充（管理面の機能改定・画像データのダウンロード機能等）、附属校関係資料のデータベース統合等について報告した。

続いて全体討議に移り、出席した会員のほ



全体討議の様子

ぼ全員が討議に参加した。

各会員からは、自機関における資料目録作成の実態の披露がなされるとともに、資料目録の取り方をめぐって数多くの質問がなされた。簿冊資料の細目の取り方や、一度取った目録の修正、学内他機関でもつ資料の目録作成の有無など、多様な側面から活発な質疑が交わされ、目録をめぐる知識と問題意識を相互に深めた。

筆者が討論から受けた印象としては、各機関において進展に違いはあれ、目録の採録項目や、それぞれの方法・問題意識はかなり似通っている。いくつかの要素に括りだせば、目録の採録方法については、統一に向けた作業が行えるようにも思えた。といて図書館のようになかなか運ばないだろう。しかし、将来的には日本の図書館が広く参加する目録所在情報サービス（NACSIS - CAT/ILL）のように、各機関で所蔵する大学史資料の所在情報ポータルサービスの実現も、まったくの夢物語ではないように思われる。今後より深めていきたいテーマの研究会であった。

2018年5月31日(木) 全国大学史資料協議会東日本部会 2018年度総会

東日本部会創立 30 周年記念講演会・シンポジウム 「大学アーカイヴズの可能性」から考えたこと

東京経済大学史料室 田辺 可奈

5月31日(木)の全国大学史資料協議会東日本部会は、総会と、「大学アーカイヴズの可能性」というテーマでの東日本部会創立30周年の記念講演会と記念シンポジウムが行われた。

総会の後、国立歴史民俗博物館研究部名誉教授の荒川章二氏により「大学史と学生生活・活動資料—個別大学史と学生史の間で—」と題した記念講演会が行われた。2017年に行われた国立歴史民俗博物館の企画展示『1968年』無数の問いの噴出の時代』を題材として、中でも学生運動(全共闘運動)の部分を取り上げ、その実際の展示業務とともに、大学史資料の活用や課題についてお話しいただいた。

「1968」展は、全共闘とはどのような運動だったのか、何を訴えたのかを、大学文書館等や、新たに歴博に所蔵されたという東大闘争(6700点)、日大闘争(約1万3000点)の私文書群、公的記録以外の多様な視線や対象による写真や映像などの膨大な資料の調査・分析を基に、構成・展示されたとのことである。展示をするにあたっては、写真資料の利用の難しさ、また現物資料の魅力とそれを



シンポジウムでの荒川章二氏

展示する苦勞、なるべく多種多様な地域、媒体の資料を展示するよう心がけたことなどを語っておられたことが印象的であった。また大学博物館や大学史において「大学闘争期」を取り上げる際の課題について、大学側や運動主体の学生の文書だけでなく、「大学の構成員」である学生や教職員の少数批判派の主張や視線なども含めて分析することが重要であり、その上で大学史及び当該期の社会史の中に位置づけていくことが「大学史をつくる」ことにつながるのではとお話であった。

シンポジウムでは、先の講演会をふまえて、大学史資料の選別・保存・活用やその問題点などについて話し合われた。大学史の中で学園紛争を取り上げるのは難しいという

ことはパネリストの方々の中で共通しているようであった。また、公文書・私文書という枠を越えて資料収集をする必要があるのではないか、学生運動のような歴史的評価が定まらない事象こそ展示の意味があるのでは、学生運動のような「大学の本質」に迫るような展示、といった言葉が印象的であった。

大学は、学生、教職員、地域やその人々などで構成されており、「大学史」はその構成員が織りなす個々の歴史が折り重なってできている。だからこそ大学史の展示では、なるべく多種多様な主体や媒体の資料（負の歴史

と成り得るものも含めて）を提示することが重要であり、まだ評価の定まっていない、かつ大学にとって負の歴史ともなりうる学生運動のような事象を取り上げるに当たっては、特に慎重な調査研究の上に展示をしなければならぬと感じた。

今回の講演会とシンポジウムは、本会への参加も初めて、大学史や近現代史も専攻外の私にとって、大学とは、大学史とは何かを考える良い機会となった。再来年に控える本学の大学史の展示にも生かしていきたいと思う。

2018年8月2日(木) 研究会

第110回研究会（東京藝術大学）に参加して

法政大学史センター 北口 由望

2018年8月2日（木）、東京藝術大学上野キャンパスにおいて第110回東日本部会研究会が開催された。今回の研究会では、東京藝術大学演奏芸術センターの大石泰先生が「戦没学生のメッセージ」プロジェクト〜クラウドファンディングの視点から」、同音楽学部大学史史料室の橋本久美子先生が「音楽学部大学史史料室の活動紹介」と題する報告を、それぞれ担当された。SNSを利用して不特定多数から広く資金を調達するクラウド

ファンディングと、大学史の活動がどのように結びつくのだろうかと興味を抱いた。

大石先生の報告では、クラウドファンディングの種類や運営会社といった基礎的な情報に始まり、運営会社側に支援してくれると予想される人物リストを提出しなければならないこと、寄付者の1/3が知り合いであることなど、ご自身の経験について伺うことができた。「戦没学生のメッセージ」プロジェクトの発端は戦後70年を迎えた2015年、

2人の戦没学生が遺した譜面が大学史史料室に持ち込まれたことにあるという。藝大と戦争といえば戦没画学生が遺した絵画を展示する「無言館」を想起するが、戦没した音楽学生もまた、譜面という形で作品を遺していたのである。これらの譜面から音楽を再現して演奏会を開催するというプロジェクトがクラウドファンディングで進められたことは、芸術系の大学にしかできない取り組みであろう。

橋本先生からは大学の歴史や大学史活動についてご報告いただいたが、東京音楽学校（現・音楽学部）と東京美術学校（現・美術学部）を前身とする東京藝術大学は、それまで異なる歴史を歩んだ2学部それぞれの独自性を保っているところに特徴があると感じた。大学史活動においても、美術学部側が百年史を見込んで教育資料編纂室を設置していたのに対し、音楽学部は学部内の図書室・視聴室がある音楽研究センター内で百年史編纂を開始した。2011年より学部ごとの資料保存から全学的アーカイブズ体制（総合芸術アーカイブセンター）が試みられたが、5年のプロジェクトで終了して規則を残したまま活動停止となり、現在では音楽学部が大学史史料室、美術学部には教育資料編纂室が設けられているという。



参加者の質問に答える橋本氏と大石氏

報告を聞いたのち、2つのグループに分かれて、キャンパスおよび音楽学部大学史史料室を見学した。敷地内には多くの関係者の銅像が設置されているが、なかでも六角堂におさまる岡倉天心の全身像はやや腰高である。また、史料室に入ると、棚の上に史料の入った展示ケースが置かれ、部屋の奥にパネルが掲げられていた。例年9月の藝祭には、史料室の部屋を丸ごと特別公開しているという。大学史活動において常設の展示スペースを持たない（持てない）大学も多いなか、たとえ短期間とはいえ、自らの執務室に史料を展示して公開するという発想に驚いた。クラウドファンディングによるプロジェクトの達成や展示の在り方など、大学史活動の更なる可能性を感じることでできる、大変意義のある研究会だった。

全国大学史資料協議会

東日本部会 2018 年度総会議事録

日 時 2018 年 5 月 31 日 (木)

13 時 00 分～13 時 50 分

会 場 國學院大學渋谷キャンパス

学術メディアセンター 1 階

常磐松ホール

(所在地) 東京都渋谷区東 4-10-28

〔部会総会の成立〕

* 現会員数と出欠状況

	総計	出席	欠席届
機関会員	67	42	18
個人会員	33	8	6
総 計	100	50	24

* 総会定足数は、機関会員 67、個人会員 33 の総計 100 の過半数 50 である。

* 部会規約第 11 条第 5 項に基づき、欠席届を委任状とするため、出席会員数 (50) と欠席届提出会員数 (24) の合計は 74 となり、部会総会は成立した。

〔出席会員〕

愛知大学 跡見学園女子大学 学習院

神奈川大学 関東学院 慶應義塾

國學院大學 国際基督教大学 国士館

自由学園 淑徳大学 上智大学

女子美術大学 聖心女子大学 専修大学

創価大学 大東文化大学 拓殖大学

創価大学 中央大学 帝京大学 東海大学

東京家政大学 東京経済大学 東京農業大学

東邦大学 東北学院 東洋英和女学院

独協学園 富山大学 日本女子大学

日本大学 法政大学 武蔵学園

武蔵野美術大学 明治学院 明治大学

明星大学 立教学院 立教大学 立正大学

早稲田大学

古俣達郎 清水善仁 中村青志 西山伸

橋本久美子 林慎一郎 古郡信幸 松田栄作

(出席者合計 65 名)

〔配布資料〕

1. 総会次第
2. 2018 年度総会参加者一覧
3. 2017 年度事業報告書
4. 2017 年度収支決算書
5. 2017 年度貸借対照表
6. 2018 年度事業計画書 (案)
7. 2018 年度収支予算書 (案)
8. 【30 周年記念事業】会員情報ページの設置について (案)
9. 2018 年度～2019 年度役員案
10. 参加状況一覧
11. 会員名簿

開会の挨拶 池原 治氏

(会長 神奈川大学大学資料編纂室)

議長の選出 議長 檜皮 瑞樹氏

(東京経済大学図書館・史料室)

副議長 小川 玲美子氏

(女子美術大学歴史資料室)

議 事 1. 2017 年度事業報告・同決算報告について

事務局 (立教学院) から、配布資料「2017 年度事業報告書」に基づいて、昨年度の事業報告があり、会計委員 (法政大学) から配布資料「2017 年度収支決算書」(7 頁【表 1】) に基づいて昨年度の収支決算が報告され、満場一致で承認された。

2. 2017 年度監査報告について

【表 1】

全国大学史資料協議会東日本部会

2017 年度収支決算書

2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

【収 入】

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
会費収入	1,525,000	1,505,000	20,000	
法人等会員	1,340,000	1,340,000	0	67 機関分× 20,000 円
個人会員	185,000	165,000	20,000	32 名分× 5,000 円+ 2016 年度 1 名分 5,000 円 (※個人会員 1 名滞納)
利息収入	1,000	46	954	
預貯金利息	1,000	46	954	預金利息
参加費収入	445,000	421,000	24,000	
部会総会参加費	195,000	153,000	42,000	51 名分× 3,000 円 (6 月 8 日 淑徳大学)
全国総会参加費	250,000	268,000	△ 18,000	51 名分× 5,000 円 (10 月 11 日～13 日 愛知大学) + バス代 26 名分× 500 円
雑収入	0	0	0	
合 計	1,971,000	1,926,046	44,954	

【支 出】

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
運営費支出	100,000	27,167	72,833	
総会費	40,000	0	40,000	
幹事会費	20,000	0	20,000	
部会研究会費	40,000	27,167	12,833	(清泉女子大学) 施設利用料 (研究会)
謝礼支出	80,000	22,274	57,726	
講師謝礼等	80,000	22,274	57,726	平松礼二氏講演謝金、平松氏講演謝金の源泉所得税
消耗品費支出	10,000	2,268	7,732	
消耗品費	10,000	2,268	7,732	事務用品代等
印刷費支出	500,000	278,316	221,684	
印刷費支出	500,000	278,316	221,684	会報 No.56、No.57 印刷費 (前年度 No.56 未払分 および今年度 No.57 分) (※会報 No.58 は次年度へ繰越)
通信費支出	180,000	100,025	79,975	
事務連絡費	180,000	100,025	79,975	会員連絡費、会報発送費 (前年度 No.56 未払分および今年度 No.57 分) 切手料金等
手数料支出	10,000	4,428	5,572	
手数料等	10,000	4,428	5,572	金融機関送金手数料他
参加費支出	500,000	305,948	194,052	
総会参加費	500,000	305,948	194,052	全国総会分担金、部会情報交換会費等 (※西日本分担金 136,968 円)
旅費交通費支出	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	350,000	279,562	70,438	
出版事業	250,000	193,989	56,011	叢書 18 号、叢書 19 号 (反訳)
その他	0	0	0	
ホームページ事業	100,000	85,573	14,427	ウェブサイト契約料等 (※西日本分担金 78,143 円)
ホームページ改善積立金	200,000	200,000	0	
30 周年記念事業 積立金繰入支出	0	0	0	
予備費	50,000	0	50,000	
合 計	1,980,000	1,219,988	760,012	
当年度収支差額	△ 9,000	706,058	—	
前年度繰越収支差額	2,253,346	2,253,346	—	
翌年度繰越収支差額	2,244,346	2,959,404	—	

【表2】

2017年度貸借対照表

2018年3月31日

【資産】

(単位：円)

項目	本年度末	前年度末	増減	摘要
30周年記念事業積立金	2,500,000	2,500,000	0	
三井住友銀行	2,500,000	2,500,000	0	三井住友銀行 経堂支店普通預金
ホームページ改善積立金	400,000	200,000	200,000	
三井住友銀行	400,000	200,000	200,000	三井住友銀行 経堂支店普通預金
銀行預金	2,907,153	2,195,082	712,071	
三井住友銀行	2,907,153	2,195,082	712,071	三井住友銀行 経堂支店普通預金
現金	52,251	58,264	△6,013	
事務校	21,685	24,552	△2,867	立教学院
事務校	11,924	15,680	△3,756	専修大学
会計校	18,642	0	18,642	法政大学
前会計校	0	18,032	△18,032	東海大学
合計	5,859,404	4,953,346	906,058	

【負債・収支差額】

(単位：円)

項目	本年度末	前年度末	増減	摘要
負債	2,900,000	2,700,000	200,000	
30周年記念事業引当金	2,500,000	2,500,000	0	
ホームページ改善引当金	400,000	200,000	200,000	
収支差額	2,959,404	2,253,346	706,058	
収支差額	2,959,404	2,253,346	706,058	
合計	5,859,404	4,953,346	906,058	

2018年4月1日

上記の通り報告します。

会計委員 東海大学 椿田 卓士 ㊟

法政大学 秋山 彩子 ㊟

法政大学 古俣 達郎 ㊟

2018年4月19日

監査の結果、適正と認めます。

監査委員 大東文化大学 浅沼 薫奈 ㊟

学習院 桑尾光太郎 ㊟

【表 3】

全国大学史資料協議会東日本部会
2018 年度収支予算書（案）
2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日

【収 入】 (単位：円)

項 目	2018 年度予算	2017 年度予算	増 減	摘 要
会費収入	1,500,000	1,525,000	△ 25,000	
法人等会員	1,340,000	1,340,000	0	67 機関@ 2 万円 (2017 年度は 67 機関)
個人会員	160,000	185,000	△ 25,000	32 名 (2017 年度は 32 名 @5 千円) + 2016 年度滞納者 1 名分 @5 千円
利息収入	1,000	1,000	0	
預貯金利息	1,000	1,000	0	銀行利息
参加費収入	395,000	445,000	△ 50,000	
部会総会参加費	195,000	195,000	0	65 名 @ 3,000 円 (2017 年度は淑徳大 51 名、2018 年度は國學院大)
全国総会参加費	200,000	250,000	△ 50,000	40 名 @ 5,000 円 (2017 年度は愛知大 51 名、2018 年度は九州大)
雑収入	0	0	0	
雑収入	0	0	0	
30 周年記念事業 積立金繰入収入	2,500,000	0	2,500,000	
30 周年記念事業 積立金繰入収入	2,500,000	0	2,500,000	30 周年記念 記念事業積立金の切り崩し
合 計	4,396,000	1,971,000	2,425,000	

【支 出】 (単位：円)

項 目	2018 年度予算	2017 年度予算	増 減	摘 要
運営費支出	50,000	100,000	△ 50,000	
総会費	20,000	40,000	△ 20,000	会場費・非課税講師交通費
幹事会費	10,000	20,000	△ 10,000	会場費・設備使用料 他
部会研究会費	20,000	40,000	△ 20,000	会場費・入場料・飲料代 他
謝礼支出	80,000	80,000	0	
講師謝礼等	80,000	80,000	0	講演料・原稿料・源泉税・課税交通費
消耗品費支出	10,000	10,000	0	
消耗品費	10,000	10,000	0	事務消耗品費
印刷費支出	500,000	500,000	0	
印刷費支出	500,000	500,000	0	会報印刷費 (前年度未払分 No.58 および No.59 年 2 回分)
通信費支出	180,000	180,000	0	
事務連絡費	180,000	180,000	0	会員連絡費、会報送料 (前年度未払分 No.58 および No.59 年 2 回分)
手数料支出	10,000	10,000	0	
手数料等	10,000	10,000	0	金融機関振込手数料他
参加費支出	550,000	500,000	50,000	
総会参加費	550,000	500,000	50,000	情報交換会費その他 (5 月部会総会、10 月全国総会)
旅費交通費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
事業費支出	2,850,000	350,000	2,500,000	
出版事業	250,000	250,000	0	叢書 19 号印刷費、その他
その他	0	0	0	
ホームページ事業	100,000	100,000	0	維持管理金
30 周年記念事業	2,500,000	0	2,500,000	シンポジウムと WEB リニューアル費用等
ホームページ改善積立金	200,000	200,000	0	ホームページのバージョンアップ・機能追加臨時経費
30 周年記念事業 積立金繰入支出	0	0	0	
予備費	50,000	50,000	0	
合 計	4,480,000	1,980,000	2,500,000	
当年度収支差額	△ 84,000	△ 9,000	-	
前年度繰越収支差額	2,244,346	2,253,346	-	
翌年度繰越収支差額	2,160,346	2,244,346	-	

監査委員（大東文化大学）から決算が適正であった旨の監査報告（8頁【表2】）があり、報告について満場一致で承認された。

3. 2018年度事業計画・同予算案について

事務局（立教学院）から、配布資料「2018年度事業計画書（案）」に基づいて、本年度事業計画案の説明があり、次いで会計委員（法政大学）から配布資料「2018年度収支予算書（案）」（9頁【表3】）に基づいて本年度予算案が説明され、審議の結果、事業計画・予算案とも原案通り満場一致で承認された。

4. 創立30周年記念事業について

ワーキング・グループ（日本大学）から、30周年記念事業として、会員情報ページの設置について提案がなされた。審議の結果、満場一致で承認された。

5. その他

事務局（立教学院）から、配布資料「2018年度～2019年度役員案」に基づいて、新役員の説明があり、満場一致で承認された。

閉会の挨拶 村松 玄太氏

（新会長 明治大学大学史資料センター）

〔概要〕 部会総会では、会長挨拶から始まり、議長副議長の選出がなされた。議題については、例年通り前年2017年度事業報告・決算報告があり、監査報告を含めて会員に諮られ、問題なく承認された。続いて、

2018年度事業計画案及び予算案について、通常の部会研究会や全国研究会に加えて「創立30周年記念事業」が展開されることが説明され、承認された。

2018年度は当会創立30周年に当たるため、前年度より記念事業開催を企画・推進してきた事業検討ワーキング・グループより、次の2つが実行される旨が報告された。①会の歩みを振り返る「創立30周年記念講演会・シンポジウム」を開催する、②ホームページをさらに活用推進することを目的として「会員情報ページ」（東西あわせた会員校の紹介）の充実を図る。①については総会同日に開催された。②についてはその意義や会員の負担などについていくつか質疑応答がなされ、概ね同意された。（浅沼薫奈）

東日本部会創立30周年記念講演会

司 会 桑尾 光太郎氏

（学習院アーカイブズ）

挨拶 赤井 益久氏（國學院大學学長）

趣旨説明 瀬戸口 龍一氏

（専修大学総務部大学史資料課）

講演者 荒川 章二氏

（国立歴史民俗博物館名誉教授）

テーマ 大学史と大学生生活・活動資料

— 個別大学史と学生史の間で—

〔概要〕 事務局による創立30周年記念講演会およびシンポジウムの趣旨説明の後、荒川章二氏が「大学史と大学生生活・活動資料—個別大学史と学生

史の間で」と題する記念講演を行った。講演は、2017年に開催された国立歴史民俗博物館企画展示「1968年―無数の問いの噴出の時代―」の企画・実施の過程をふまえた、大学闘争関係資料の調査・収集・研究およびその方法と課題を中心とするものであった。1960年代後半より全国的に広がった市民運動や住民運動とあわせて活発化した学生運動の展開と、その運動が学生にもたらした意味について述べられた他、当時の関係資料を如何に調査・収集し活用していくか、といった実務的な視点も含めて講演された。大学史業務とも大きく関わると同時に、講演に続く記念シンポジウムのテーマである「大学アーカイヴズの可能性」の趣旨にも直結した30周年記念講演となった。（樫田卓士）

東日本部会創立30周年記念シンポジウム

テーマ 大学アーカイヴズの可能性

司会 桑尾 光太郎氏

（学習院アーカイヴズ）

パネリスト 荒川 章二氏

（国立歴史民俗博物館名誉教授）

大坪 潤子氏

（神奈川大学資料編纂室）

西山 伸氏（京都大学文書館）

堀越 峰之氏

（帝京大学総合博物館）

松崎 彰氏（名誉会員、中央大学理工学部非常勤講師）

松原 太郎氏（日本大学企画広

報部広報課）

〔概要〕 荒川先生の記念講演への感想などを各パネリストが述べ、その後、「30年を振り返り、将来の傾向と課題を挙げる」、「20年の歩みが出た後10年の動向や変化は何かがあるか」という内容へ移っていった。

協議会は30年前に資料を収集・保存・活用するために「教員と職員の間を削る」「地域や個別の間を削る」「資料の間を削る」ということを掲げ、設立。ここ10年は、大学史に求められるものが増えた実感があり、それは展示や自校史などを行うことで大学の個性を確立させる必要性が高まったからであるとの意見が述べられた。

さらに、今後はメールなどに書かれた重要なデジタル資料をどう保存するかも課題であると同時に、デジタル化が進む中で、現物を展示する意味を考えることも必要なのではないかという意見も述べられ、シンポジウムは終了した。

（細川明子・阿久津朋子）

情報交換会 カフェラウンジ若木が丘において情報交換会を開催した。國學院大学の渡邊卓氏から開催の挨拶が、名誉会員の松崎彰氏から乾杯の発声があった。司会・進行は、法政大学史センターの秋山彩子氏が務めた。新規入会会員、初参加会員等の挨拶があり、会員相互の充実した情報交換の場となった。最後に、副会長・専修大学総務部大学史資料課の石綿豊

大氏より閉会の挨拶があり、情報交換会を終了した。

全国大学史資料協議会

東日本部会幹事会議事録

第 172 回 2018 年 3 月 15 日 (木)

13:00 ~ 14:00

会 場 明治大学駿河台キャンパス

大学会館 8 階第 3・4 会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學

専修大学 東海大学 東京農業大学

日本大学 法政大学 武蔵野美術大学

明治大学 立教学院

議 題 (1) 2018 年度東日本部会総会について

事務局より、日程・会場等について報告がなされた。

(2) 創立 30 周年記念事業について

事務局より、第 3 回ワーキンググループで検討した内容について、下記のような報告がなされた。

- ・シンポジウムのテーマは「大学アーカイヴズの可能性」とする。
- ・司会を桑尾光太郎氏 (学習院アーカイヴズ)、パネラーを松崎彰氏 (名誉会員)、西山伸氏 (京都大学文書館)、松原太郎氏 (日本大学企画広報部)、堀越峰之氏 (帝京大学総合博物館)、大坪潤子氏 (神奈川大学大学資料編纂室) とする。
- ・広報用チラシを作成し、外部への発送を行う。特別に招待を行いたい方がいる場合は、事務局に報告

し、事務局より招待者に連絡を行うこととする。

- ・公式 HP における会員紹介ページの作成に関しては、総会で承認を得られるよう、次回幹事会で報告を行う。

(3) 2018 年度役員改選について

- ・事務局より、次回幹事会までに会員全体に立候補を募り、立候補がない場合は事務局より個別に依頼を行っていくことが確認された。
- ・事務局より、次年度継続ができない幹事校の確認がなされた。法政大学、東京農業大学より継続できない旨が報告され、今回欠席だった日本体育大学、馬場氏も継続が難しいと考えられるため、新幹事校を選出する必要があることが確認された。

- ・明治大学と日本大学より、事務局候補がいなかった場合、立候補するという申し出があった。ただし、日本大学は、周年事業の関係で、2019 年度は業務が多忙となる見込みであることが紹介された。

(4) 2018 年度予算案について

- ・会計校 (東海大学) より、予算案については 4 月の幹事会に諮ることが確認された。

(5) 2018 年度総会・全国研究会について

- ・事務局 (立教学院) より、2018 年度総会・全国研究会に関する西日本部会からの連絡事項が報告された。全国研究会のテーマは「大学史資料の収集範囲」(仮)、報告

者は3名（西日本部会2名、東日本部会1名）、報告後のシンポジウムで議論を行う形式を予定している。今後、キャンパスの場所の詳細について事務局より確認を行うこととなった。

(6) その他

- ・事務局より、会員の入退会について報告がなされた。
- ・叢書・会報担当校（國學院大學）より、研究叢書は原稿を依頼中であり、会報は58号を編集中、4月刊行予定である旨が報告された。
- ・次回幹事会は、4月26日（木）15時から國學院大學にて開催することが決まった。

第173回 2018年4月26日（木）

15時00分～17時00分

会場 國學院大學渋谷キャンパス

学術メディアセンター5階プロジェクトルーム

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學
 専修大学 大東文化大学 東海大学
 東京農業大学 日本大学 法政大学
 武蔵野美術大学 明治大 立教学院
 古郡信幸

議題 (1) 2018年度東日本部会総会について

- ・事務局（立教学院）より、部会総会の日程について説明がなされた。会場校からのあいさつは、総会ではなく、総会後の30周年記念講演会で頂くことを確認した。
- ・事務局（立教学院）より、部会総

会資料の事業報告書および事業計画書（案）の説明がなされた。年間の研究テーマは、昨年同様「大学アーカイヴズの可能性」とすることを確認した。

- ・会計担当（法制大学・東海大学）より、2017年度決算書および2018年度予算案に関する説明がなされた。併せて、「近年の会費状況と収支バランス」に関する報告がなされ、意見交換を行った。

(2) 創立30周年記念事業について

- ・事務局（専修大学）より、記念事業に関するWGでの議論が紹介された。また、明治大学・日本大学から、ホームページを活用した会員校紹介の仕様等について報告がなされた。

(3) 2018年度総会・全国研究会について

- ・事務局（立教学院）より、2018年度総会・全国研究会に関する西日本部会の準備状況について報告がなされた。全国研究会では、「大学史資料の収集の範囲」をテーマとし、4つのカテゴリーで報告を行うこと、うち1つのカテゴリーを東日本部会が担当することを確認した。報告者については、西日本部会の意向を確認の上、選定することとなった。

(4) 2018年度役員改選について

- ・事務局（立教学院）から、役員改選案について説明がなされた。審議の結果、この案を総会に提案す

ることとなった。

(5) 2018年度研究会について

- ・事務局（立教学院）から、総会および7月研究会の担当・記録について確認がなされた。

(6) その他

- ・事務局（立教学院）より、アート・ドキュメンテーション学会（JADS）シンポジウムの後援について説明がなされ、後援することが確認された。
- ・事務局（立教学院）より、会員の入退会について報告がなされた。
- ・叢書・会報担当（國學院大學）より、研究叢書と会報の編集状況について報告がなされた。会報については、シンポジウムのチラシと一緒に発送することが確認された。

第174回 2018年5月31日（木）

12時00分～12時30分

会場 國學院大學渋谷キャンパス

学術メディアセンター5階プロジェクトルーム

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學
専修大学 大東文化大学 東海大学
東京農業大学 日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学 立教学院
古郡信幸

議題 (1) 2018年度東日本部会総会について

- ・事務局（立教学院）より、部会総会および創立30周年記念講演会・シンポジウムの次第と担当者の確認が行われた。

(2) 2018年度総会・全国研究会について

- ・事務局（立教学院）より、全国研究会における東日本部会からの報告は、宗教系の大学に限定されるものではないことが報告された。
- ・報告者については、個別に折衝し、次回幹事会で決定することが確認された。

(3) 2018年度研究会について

- ・担当（神奈川大学）より、次回研究会を、東京藝術大学を会場として、7月26日（木）または8月2日（木）に開催する方向で調整中であることが報告された。
- ・事務局（立教学院）より、新任運営委員候補を含めた2018年度・2019年度の担当および記録の分担案について提案がなされた。一部記録の順番を入れ替え、了承された。

(4) 創立30周年記念事業について

- ・ワーキンググループ（日本大学・明治大学）より、「会員情報ページの設置」について報告がなされた。

(5) その他

- ・事務局（立教学院）より、会員の入退会について報告がなされた。

第175回 2018年8月2日（木）

13時00分～14時00分

会場 東京藝術大学上野キャンパス
音楽学部5号館3階301

出席 学習院 神奈川大学 國學院大學
淑徳大学 専修大学 大東文化大学

帝京大学 東海大学 東京経済大学
 日本大学 武蔵野美術大学
 明治大学 立教学院
 古俣達郎

議 題 (1) 第 110 回研究会について

・担当 (神奈川大学) より、研究会の進行について報告がなされた。

(2) 幹事会・役員会について

・事務局 (日本大学) より、新幹事の紹介と、西日本部会の役員について報告がなされた。

(3) 2018 年度東日本部会総会・記念シンポジウム総括

・事務局 (日本大学) より、部会総会および創立 30 周年記念講演会・シンポジウムの参加状況について報告がなされた。

(4) 2018 年度全国研究会について

・事務局 (日本大学) より、総会および全国研究会の日程および役割分担について報告がなされた。

(5) 創立 30 周年記念事業 WG について

・事務局 (日本大学) より、WG における「ホームページ上における会員校の紹介」に関する議論が紹介され、会員校の紹介には西日本部会も含めること、WG のこれまでの活動について会員に報告することなどが確認された。

(6) 2018 年度研究会について

・事務局 (日本大学) より、今後の研究会担当と記録担当の確認がなされた。

(7) その他

・事務局 (日本大学) より、会員の入退会について報告がなされた。

・事務局 (日本大学) より、第 12 回資料保存シンポジウムへの後援依頼について報告がなされた。審議の結果、後援することが了解された。

・叢書・会報担当 (國學院大學) より、会報および叢書の編集業況について報告がなされた。また、事務局 (日本大学) より、叢書の外部機関への発送状況について報告がなされ、今後の検討課題であることが確認された。

・事務局 (立教学院) より、2019 年度総会・全国研究会について、立教大学を会場とする企画が提案された。他の会場も含め、検討していくことが確認された。

・次回幹事会を、9 月 27 日 (木) に立教大学で開催することが確認された。

第 176 回 2018 年 9 月 27 日 (木)
 15 時 00 分～ 16 時 00 分

会 場 : 立教大学池袋キャンパス
 5 号館第 1 会議室

出 席 学習院 神奈川大学 國學院大學
 淑徳大学 専修大学 大東文化大学
 帝京大学 東海大学 東京経済大学
 日本大学 武蔵野美術大学
 明治大学 立教学院
 古俣達郎

議 題 (1) 2018 年度総会ならびに全国研究会について

- ・2018年度総会ならびに全国研究会について、日程・担当などを確認した。
- ・事務局（日本大学）より、西日本部会庶務校（関西学院大学）から情報交換会の時間変更について連絡を受けたことが報告された。
- ・事務局（日本大学）より、全国研究会の出欠状況について報告があった。

(2) 創立30周年記念事業WGについて

- ・國學院大學より、30周年記念シンポジウム録音データのテープ起こしが完了した旨、報告がなされた。WG担当者全員で内容を確認した上で、次回、どのような体裁の報告書とするか検討していくこととなった。
- ・ホームページ上における会員校紹介については、西日本部会にも協力を仰ぐため、10月の全国総会で報告することが確認された。

(3) 2019年度全国研究会について

- ・会場を立教学院（立教大学）とすることについて承認された。なお、立教学院より、来年度の全国研究会に合わせて立教学院展示館で協議会との共催企画展を開催してはとの提案があり、幹事会として承認された。本件については、2019年度の東日本部会総会で提案することとし、2019年1月の研究会で、会員に向けての報告及び検討会を開催することとなった。

(4) 2018年度研究会について

- ・12月研究会担当（東海大学）より、会場をフェリス女学院大学で調整中との報告があった。
- ・1月研究会担当（専修大学）より、議題(3)の通り、立教学院展示館での共催展について、報告及び検討会として開催予定との報告があった。

(5) その他

- ・叢書・会報担当（國學院大學）より、研究叢書及び会報の進捗状況について報告があった。
- ・会計校（東海大学）より、年会費の納付状況について報告された。
- ・2019年度東日本部会総会の会場については、12月の幹事会で決定することが確認された。
- ・幹事会終了後、共催展開催予定会場である立教学院展示館の企画展示室を見学した。

全国大学史資料協議会

東日本部会研究会記録

第109回 2018年3月15日（木）

14時00分～17時00分

会場 明治大学駿河台キャンパス
大学会館8階第3・4会議室

出席 お茶の水女子大学 学習院
神奈川大学 國學院大學 自由学園
淑徳大学 上智大学 女子美術大学
専修大学 創価大学 拓殖大学
帝京大学 東海大学 東京経済大学

東京女子大学 東京農業大学
 東邦大学 東洋英和女学院
 東洋学園大学 東洋大学
 日本女子大学 日本大学 法政大学
 武蔵野美術大学 明治大学
 立教学院 立正大学
 林慎一郎 古郡信幸
 会員外 1 名

以上 42 名

会長挨拶 池原 治

(神奈川大学大学資料編纂室)

司 会 村松 玄太

(明治大学史資料センター)

報 告 ①構築をめぐる—専修大学におけ

る文書資料目録の作成について—

瀬戸口 龍一

(専修大学総務部大学史資料課)

②資料目録について考える ①構築

をめぐる (写真編)

松原 太郎

(日本大学企画広報部広報課)

③構築をめぐる—永遠の仮目録

—明治大学史資料センターの目録

構築—

村松 玄太

(明治大学史資料センター)

④資料目録ウェブ検索システムと資

料公開について

椿田 卓士

(東海大学学園史資料センター)

⑤立教学院史資料データベースの現

状と課題

舟橋 正真

(立教学院史資料センター)

全体討議 質疑応答

〔概要〕 今回の研究会は資料目録、資料データベース構築をテーマとして 5 名が報告した。専修大学大学史資料課瀬戸口龍一氏と明治大学史資料センター村松玄太氏が目録作成について報告し、日本大学広報課の松原太郎が写真資料の目録及び簡易データベースの構築について報告した。資料データベースについては、東海大学学園史資料センターの椿田卓士氏と立教学院史資料センターの舟橋正真氏が、それぞれ稼働中のウェブ検索システム、資料データベースについて概要を報告した。報告終了後は全体討議となり、出席会員から報告者に対する質疑応答とともに、各大学の目録作成、資料データベースの構築などの現状について意見が交わされた。資料目録は、参加会員も日頃の実務に密接に関わるテーマであるためか、いつにもまして活発な意見交換がなされた。(松原太郎)

第 110 回 2018 年 8 月 2 日 (木)

14 時 30 分～16 時 30 分

会 場 東京藝術大学上野キャンパス

音楽学部 5 号館 3 階 301

出 席 青山学院 お茶の水女子大学

学習院 神奈川大学 國學院大學

淑徳大学 専修大学 大東文化大学

帝京大学 東海大学 東京家政大学

東京経済大学 東京農業大学

東邦大学 獨協学園 日本女子大学

日本大学 法政大学

武蔵野美術大学 明治学院

明治大学 明星大学 立教学院
古俣達郎 中村青志 橋本久美子
古郡信幸 近藤秀二
会員外 1名

以上 34名

会長挨拶 阿部 裕樹 (明治大学史資料セン
ター)

司 会 齊藤 研也 (神奈川大学大学資料編
纂室)

講演① 橋本久美子 (東京藝術大学大学史史
料室)

「音楽学部大学史史料室の活動紹介」

講演② 大石 泰 (おおいし・ゆたか 東京
藝術大学演奏藝術センター)

『『戦没学生のメッセージ』プロジェ
クト〜クラウドファンディングの視点
から』

見 学 大学史史料室およびキャンパス見学
〔概要〕 東日本部会長である明治大学の阿
部裕樹氏の挨拶から始まった今回の

研究会は、最初に東京藝術大学音楽
学部大学史史料室の橋本久美子氏よ
り、大学史史料室の沿革や活動紹介
のほか、東京藝術大学の歴史や、美
術学部と音楽学部の大学史に対する
取り組みの違いなどについての話が
あった。次に東京藝術大学演奏芸術
センター教授の大石泰氏より現在、
東京藝術大学が取り組んでいる「戦
没学生のメッセージ」プロジェクト
の資金を集めるために活用したクラ
ウドファンディングについて、その
方法や種類についての詳しい報告が
あり、近年、藝大は 10 件を越すク
ラウドファンディングによって資金

を調達したプロジェクトが動いてい
ることが紹介された。

両名の報告後は質疑応答が行わ
れ、日本大学の松原氏より、藝大敷
地内に胸像が多いが、作者の多くは
卒業生か、また司会の神奈川大学の
齊藤氏からはクラウドファンディ
ングによる資金集めに対する今後の大
学側の対応は、といった質問がなさ
れた。

最後に、藝大キャンパスおよび大
学史史料室の見学が 2 グループに
分かれて行われた。

(瀬戸口龍一)

ご 案 内

全国大学史資料協議会および同協議会
東日本部会に関するお問い合わせ、入会
申し込みは、下記へご連絡ください。

【日本大学 企画広報部広報課】
〒 359-0003
埼玉県所沢市中富南 4-25
☎ 04-2996-4555

【立教学院 立教学院展示館】
〒 171-8501
東京都豊島区西池袋 3-34-1
☎ 03-3985-4841

会 報 編 集

【國學院大學 校史・学術資産研究センター】
〒 150-8440
東京都渋谷区東 4-10-28
☎ 03-5466-6677